

2025年7月12日（土）

（受付開始 9：10 / イベント 9：30 - 15：40）

会場：THMC4階 6403教室

時空を超える俳句

日々進歩を遂げる生成AIが苦手だとされている「感性」と「独創性」は、現在ブームを巻き起こしている俳句にとって重視されてきたものです。

ゲスト講師にお招きした日本文学研究者・ロバート キャンベル氏と現代俳人／詩人・佐藤文香氏とともに、古典から現代へとつながる俳句の魅力を味わい、AI俳句の新たな試みに参加してみませんか。

〈午前の部〉（9：30 - 12：20）

【Lecture】古今の名句を読む

ゲスト講師のお二方から俳句の魅力やその読み方を学びます。

【Talk session】いま、俳句を”よむ”とは？

ゲスト講師と本学の学生が俳句をめぐる言葉や感性について対話を繰り広げます。

〈午後の部〉（13：00 - 15：40）

【Lab】AI俳句を詠み、読む

参加者全員で、AIツールを活用した俳句の生成を実践。

新しい文学の鑑賞と批評の可能性をともに探究します。

※ 各自デバイス（スマートフォン、PC）と昼食をお持ちください。

よむことの 本質を探る



ロバート キャンベル

日本文学研究者

ニューヨーク市出身。専門は江戸・明治時代の文学、特に江戸中期から明治の漢文学、芸術、思想などに関する研究を行う。主な編著に『戦争語彙集』（岩波書店）、『よむうつわ』（淡交社）、『日本古典と感染症』（角川ソフィア文庫、編）、『井上陽水英訳詞集』（講談社）、『東京百年物語』（岩波文庫）等がある。

早稲田大学特命教授、せんだいメディアテーク館長、早稲田大学国際文学館（村上春樹ライブラリー）顧問、2025年日本国際博覧会協会理事、東京大学名誉教授。

佐藤 文香（さとう あやか）

俳人・詩人

1985年生まれ。兵庫県神戸市、愛媛県松山市で育つ。句集に『海藻標本』、『君に目があり見開かれ』、『菊は雪』、『こゑは消えるのに』。2014年ごろから詩も書き始め、『渡す手』にて第29回中原中也賞。編著に『俳句を遊べ!』、『天の川銀河発電所』など。日本語・日本文化教育における俳句の活用について研究中（佐々木幸喜と共同）。句集の編集協力や作詞なども手がける。

日本女子大学、都留文科大学非常勤講師。



【申込締切】7月11日（金）

※ 但し、参加人数に達した場合は応募を打ち切ることがあります。

【定員】24名（先着順）

【お問い合わせ先】都留文科大学 経営企画課（平日 9：00 - 16：30）

E-mail：kouho@tsuru.ac.jp

参加申込はこちらから

